

コロッセオ

コロッセウム（ラテン語：Colosseum、イタリア語：Colosseo コロッセオ）は、ローマ帝政期の西暦80年に、ウェスパシアヌス帝とティトゥス帝によって造られた円形闘技場。英語で競技場を指す colosseum や、コロシアムの語源ともなっている。建設当時の正式名称はフラウィウス円形闘技場（ラテン語：Amphitheatrum Flavium）。現在ではイタリアの首都ローマを代表する観光地である。

成・落成した。使用開始に当たっては、**100日間に渡り奉獻式**のイベントが行われ<sup>[3]</sup>、**模擬海戦**が行われると共に、**剣闘士試合**で様々な**猛獣5000頭**が殺され<sup>[1]</sup>、**数百人の剣闘士**が命を落としている。なお、続く**ドミティアヌス帝**の治世中にも施設の**拡張工事**が続けられ、一般市民や女性が座る**観客席の最上層部と天幕**が完成した。地上から**50mもの高さ**に**天幕**を張るために、**ミセヌム海軍基地**から派遣された**海軍兵士**が工事に従事したと言われる<sup>[4]</sup>。

**フラウィウス朝**の皇帝が建設者であることから「**フラウィウス円形闘技場**」が本来の名前である。しかし、**ネロ帝**の巨大な像（**コロッスス**）が傍らに立っていたためそれと混同して**コロッセウム**と呼ばれるようになったという説や<sup>[5]</sup>、**円形闘技場**があまりにも巨大な建物であったから**コロッセウム**と呼ばれるようになったという説<sup>[1]</sup>がある。

## 中世

ローマ帝国のキリスト教化に伴い血生臭い剣闘士競技は禁止されたと言われているが、**443年**に地震で破損したコロッセオの修復を行ったことを記念する碑文が残されており、地中海西部でのローマ帝国の支配が崩壊した**6世紀**でも修復の記録が残っていることから、**古代末期**までは競技場として使用されていたと考えられている<sup>[6]</sup>。



地下から登場した猛獣の餌食にされようとしているキリスト教徒。

コロッセウムに使用されている建材は、中世を通じて他の建築物に流用され続けた。つまり一種の採石場とされていたのである。その大理石はバチカンの**サン・ピエトロ大聖堂**にも使用されている。それにもかかわらず往時の姿をとどめているのは、迫害されたキリスト教徒がここで殉教したと伝えられていたため、一種の**聖地**となっていたからである。しかし、キリスト教徒が迫害されたという明確な証拠はない。ローマ教皇ベネディクトゥス**14世**によりコロッセオは神聖であるとして保存されるようになった。現在外周は半分程度が残っている。古代の完全な状態に再現しようとする動きはなく、このままの形で保存されていくと考えられている。

## 現代

現在ではローマはイタリアの一都市となってしまったが、建造後**1900年以上**経ってもコロッセオは今もって古代ローマの象徴でありつづけている。各種イベントに使用されることも多く、**2016年5月**には日本とイタリアの国交樹立**150年**を記念してライトアップが行われた<sup>[7]</sup>。観光地としての評価も高く、**2015年**にロンリープラネット社が発表した「世界の究極の観光地ベスト**500**」では、コロッセオは欧州最高の**7位**にランクインした<sup>[8]</sup>。

かつて多くの殺人（**公開処刑**を含む）が行われた場所であることから、現在では**死刑廃止**のイベントのために使用されている。例えば、**11月30日**の「**死刑に反対する都市（Cities for Life）**」の日や、新たに死刑を廃止した国が出たときには、その記念としてコロッセオがライトアップされる<sup>[9]</sup>。**2007年1月**には、**イラクのサッダーム・フセイン元大統領**の処刑に抗議するために点灯された<sup>[10]</sup>。

**1939年**に大規模修復が行われたのち<sup>[11]</sup>、**21世紀**に入ると長年補修が行われていなかったことや**大気汚染**や周囲の環境変化によって老朽化が進み、**2010年5月**には**漆喰の壁**が一部崩落する事故も起こった<sup>[12]</sup>。さらに同年**12月**にも再び崩落が起きたほか<sup>[13]</sup>、**2012年7月**には南側で約**40cm**の**地盤沈下**も発見された<sup>[14]</sup>。これを受け修復工事を行う動きが本格化し、**2011年12月**にはイタリアのファッション企業である**トッズ社**が修復費用**3300万ドル**（約**27億5000万円**）の負担を表明<sup>[15]</sup>。**2011年6月**には修復計画の詳細が発表され<sup>[16]</sup>、**2013年9月**には修復工事が開始されて<sup>[17]</sup>、**2016年**には第**1期**工事である壁面の洗浄や構造強化などが終了した<sup>[18][19]</sup>。これを受け、**2017年11月**にはコロッセオの最上階である**5階**の観光が**40年**ぶりに可能となった<sup>[20]</sup>。

修復第一期工事が進むのに伴い、**2014**年には、考古学者のダニエレ・マナコルダンやイタリア政府のダリオ・フランチェスキニ文化大臣らがかつてあった木製の床を復元し、文化的行事や演芸等に利用しようという案が持ち上がった<sup>[21][22]</sup>。この案には賛否双方から声が上がったものの、**2020**年**12**月**22**日、イタリア財務省はコロッセオの改修工事に伴い、アリーナ部分に開閉式の床を設置する予算を認めたことを発表した。工事は**2021**年に始まり、**2023**年に完成する予定<sup>[23]</sup>。

**2020**年のCOVID-19の流行でイタリアは大きな被害を受け、**3**月には全土が封鎖されるとともにコロッセオも閉鎖された<sup>[24]</sup>が、状況の好転した**6**月には再開された<sup>[25]</sup>。

## 構造



壁面の穴は戦傷の痕ではなく、建設および補修時の足場用の木材を挿入するための穴である。

長径**187.5**m、短径**156.5**mの楕円形で、面積**3357**m<sup>2</sup>、内部アリーナ**86×54**、高さは**48**m<sup>[26]</sup>、推定**5**万人から**8**万**7**千人の観客を収容できた。<sup>[27]</sup>（文献により**40,000**人 - **60,000**人と幅がある<sup>[28][29][30]</sup>）。**4**階建てで、アーチは各層で様式が変えられており、**1**階はドリス式、**2**階はイオニア式、**3**階はコリント式にな



コロッセウム内部。地下にあった施設が現在ではむき出しになっている。

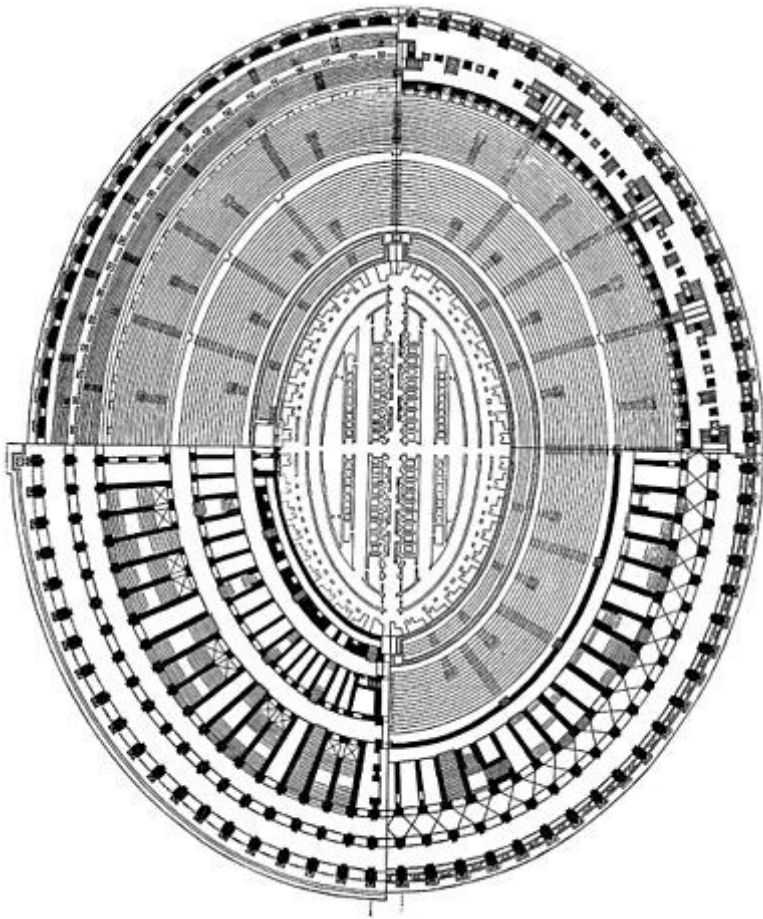
っている<sup>[31]</sup>。天井部分は開放されているが、日除け用の天幕を張る設備があった。皇帝席には**1**日中直射日光が当たらないように設計されており、また一般の観客席についても**1**日に**20**分以上日光が当たらないように工夫がされていた。円形闘技場に入るアーチは全周で**80**箇所あり、そのうち皇帝や剣闘士専用のものを除く**76**のアーチには番号が付されていた。これはテッセラ（入場券）にその番号を記して混乱せずに入場できるようにするためのものと考えられている<sup>[1]</sup>。

構造はローマン・コンクリート（火山灰を利用したコンクリート）で出来ている。鉄骨を用いないコンクリートにも関わらず幾多の地震の際も崩壊しなかったのは、全体が円筒形で力学的に安定していたためである。

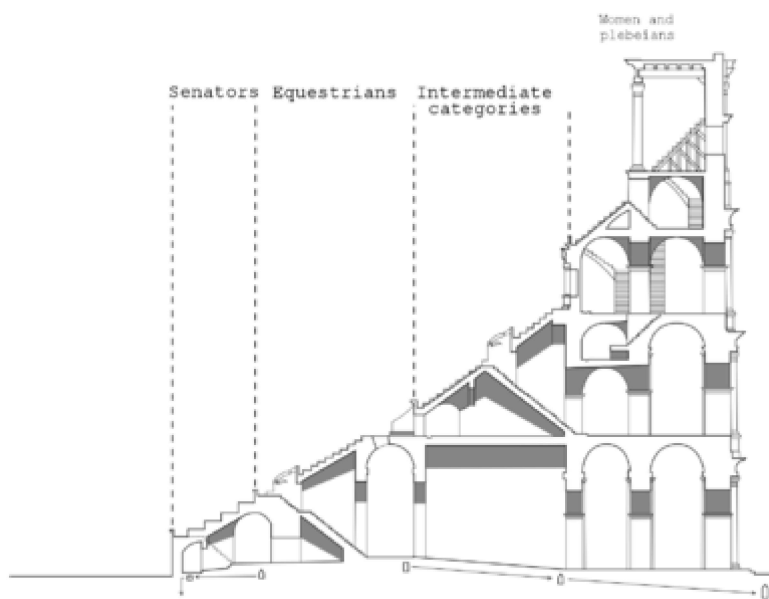
初期においては競技場にローマ水道より引いた水を張り、模擬海戦を上演することさえ可能だった<sup>[32]</sup>が、後には「迫」のような複雑な舞台装置を設置したためにそのような大規模演出は不可能となった。

このほかには剣闘士と戦う猛獣を闘技場のあるフロアまで運ぶ人力エレベーターが用意されていた<sup>[33]</sup>。

コロッセウムの横には噴水が作られた。それは「メタ・スダンス（汗をかく標識）」といわれ、闘いを終えた剣闘士もここで体を洗ったと伝えられている。



平面図（長径188m、短径156mの楕円形）



断面図（高さ52m） 前列は元老院階級席、中列が騎士階級席、その後ろが裕福なローマ市民席、最後列が一般市民と女性席

## 隣接する古代ローマ遺跡

- 北側から北東側には、ドムス・アウレア跡地にティトゥス浴場（80年完成）およびトラヤヌス浴場（109年完成）が建てられていた（現 コッレ・オッピオ公園（英語版））
- 北西側には、フォルム・ロマネムのウェヌスとローマ神殿（135年完成）と、コンスタンティヌスの凱旋門（315年完成）が建てられていた。

- 南西側は、帝政期に官邸機能を果たしていたパラティウムと、戦車競走等に使われた巨大競技場チルコ・マッシモがある。
- 南側は貴族の邸宅などがあったチェリオの丘である。



コロッセオとコンスタンティヌスの凱旋門。

## コロッセウムが登場する作品

- 『グラディエーター』 - 2000年に公開されたアメリカの映画。この映画ではコロシウムColosseumのセットが組まれたが、撮影までに完成したのは半分だけ、大きさは実物の四分の一で残りの半分はコンピュータグラフィックで作成した。
- 『ドラゴンへの道』 - ブルース・リー主演の香港映画。ブルース・リーとチャック・ノリスがコロッセオで戦うシーンがある。
- 『無敵のゴッドファーザー ドラゴン世界を征く』 - ブルース・リャン主演の香港映画。
- 『テルマエ・ロマエⅡ』 - 2014年の日本映画。阿部寛、上戸彩主演で、2012年に公開された映画の続編。この作品ではコロッセオが重要な施設として画かれている。
- 『アサシン クリード ブラザーフッド』 - ユービーアイソフト制作のアクションゲーム。
- 『クオ・ヴァディス』 - 1951年のハリウッド映画。ロバート・テイラー、デボラ・カー主演。ローマ大火時にあったと想定し、コロッセオがクライマックスの中心に。原作はノーベル文学賞作家ヘンリク・シェンキエヴィチ。



ジャン＝レオン・ジェローム作  
『Pollice Verso』

## 交通

- ローマ地下鉄B線 コロッセオ駅
- ATACトラム 3系統 コロッセオ広場停留所
- トレニタリア (旧 イタリア国鉄) テルミニ駅から南西へ2.1km

## 脚注

- <sup>1</sup> <sup>^</sup> <sup>**a b c d e**</sup> 青木正規著 皇帝たちの都ローマ ISBN 4-12-101100-7 1992年発行第1版 p257-p261

2. ^ [University of Virginia, Institute for Advanced Technology in the Humanities : Flavian Amphitheater \(http://romereborn.frischerconsulting.com/ge/AS-005-PA.html\)](http://romereborn.frischerconsulting.com/ge/AS-005-PA.html)
3. ^ ビジュアルシリーズ 世界再発見1 フランス・南ヨーロッパ」p96 ベルテルスマン社、ミッチェル・ビーズリー社編 同朋舎出版 1992年5月20日第1版第1刷
4. ^ 青木正規著 皇帝たちの都ローマ ISBN 4-12-101100-7 1992年発行第1版 p265-p266
5. ^ Martialis, Marcus Valerius、Sullivan, John Patrick、Whigham, Peter、1987年『Epigrams of Martial - Englished by divers hands』カリフォルニア大学、ISBN 0-520-04240-9 51ページ目参照。
6. ^ 本村凌二編著/池口守・大清水裕・志内一興・高橋亮介・中川亜希著『ラテン語碑文で楽しむ古代ローマ』（研究社 2011年）P118-119
7. ^ [https://www.afpbb.com/articles/-/3086809?cx\\_part=search](https://www.afpbb.com/articles/-/3086809?cx_part=search) 「日伊国交樹立150周年、国旗モチーフにコロッセオをライトアップ」AFPBB 2016年5月12日 2021年3月4日閲覧
8. ^ [https://www.afpbb.com/articles/-/3058180?cx\\_part=search](https://www.afpbb.com/articles/-/3058180?cx_part=search) 「世界の究極の観光地ベスト500発表 1位はアンコール遺跡」AFPBB 2015年8月24日 2021年3月4日閲覧
9. ^ [https://www.afpbb.com/articles/-/2329527?cx\\_part=search](https://www.afpbb.com/articles/-/2329527?cx_part=search) 「国連の死刑停止決議で、ローマのコロッセオをライトアップ」AFPBB 2007年12月25日 2021年3月4日閲覧
10. ^ [https://www.afpbb.com/articles/-/2163393?cx\\_part=search](https://www.afpbb.com/articles/-/2163393?cx_part=search) 「死刑制度廃止を呼びかけ、コロッセオがライトアップ - イタリア」AFPBB 2007年1月7日 2021年3月4日閲覧
11. ^ [https://www.nikkei.com/article/DGXNASDG0100G\\_R00C12A8CR0000/](https://www.nikkei.com/article/DGXNASDG0100G_R00C12A8CR0000/) 「イタリアのコロッセオ、73年ぶり大規模修復へ 崩落や沈下受け15年末までに」日本経済新聞 2012年8月1日 2021年3月4日閲覧
12. ^ [https://www.afpbb.com/articles/-/2726494?cx\\_part=search](https://www.afpbb.com/articles/-/2726494?cx_part=search) 「ローマ・コロッセオ、「修復よりも愛情そそぐべき」と監督責任者」AFPBB 2010年5月15日 2021年3月4日閲覧
13. ^ [https://www.afpbb.com/articles/-/2847725?cx\\_part=search](https://www.afpbb.com/articles/-/2847725?cx_part=search) 「劣化進むローマのコロッセオ、また一部が崩落」AFPBB 2011年12月28日 2021年3月4日閲覧
14. ^ [https://www.afpbb.com/articles/-/2892625?cx\\_part=search](https://www.afpbb.com/articles/-/2892625?cx_part=search) 「古代遺跡コロッセオ、南側が40センチ沈下」AFPBB 2012年7月31日 2021年3月4日閲覧
15. ^ [https://www.afpbb.com/articles/-/2777913?cx\\_part=search](https://www.afpbb.com/articles/-/2777913?cx_part=search) 「イトツズグループ、ローマの「コロッセオ」修復費用を負担」AFPBB 2010年12月6日 2021年3月4日閲覧
16. ^ [https://www.afpbb.com/articles/-/2809258?cx\\_part=search](https://www.afpbb.com/articles/-/2809258?cx_part=search) 「イトツズグループが支援、コロッセオ修復プロジェクト詳細が発表」AFPBB 2011年6月30日 2021年3月4日閲覧
17. ^ [https://www.afpbb.com/articles/-/3030809?cx\\_part=search](https://www.afpbb.com/articles/-/3030809?cx_part=search) 「伊コロッセオ、アリーナの床復元案に賛否両論」AFPBB 2014年11月4日 2021年3月4日閲覧
18. ^ [https://www.afpbb.com/articles/-/3145432?cx\\_part=search](https://www.afpbb.com/articles/-/3145432?cx_part=search) 「「平民席」の眺めは最高 ローマのコロッセオ最上階40年ぶり一般公開へ」AFPBB 2017年10月4日 2021年3月4日閲覧

19. <sup>^</sup> <https://jp.reuters.com/article/colosseum-idJPKCN0ZK0MD> 「世界遺産コロッセオ、外壁の修復終了　きれいな姿お披露目」ロイター　2016年7月4日　2021年3月4日閲覧
20. <sup>^</sup> [https://www.afpbb.com/articles/-/3145432?cx\\_part=search](https://www.afpbb.com/articles/-/3145432?cx_part=search) 「「平民席」の眺めは最高　ローマのコロッセオ最上階40年ぶり一般公開へ」AFPBB　2017年10月4日　2021年3月4日閲覧
21. <sup>^</sup> [伊コロッセオ、アリーナの床復元案に賛否両論 \(http://www.afpbb.com/articles/-/3030809\)](http://www.afpbb.com/articles/-/3030809)AFPBB　2014年11月4日　2021年3月4日閲覧
22. <sup>^</sup> [ローマのコロッセオ、床を復元へ　伊文化相がツイート \(http://www.asahi.com/articles/ASH852WFJH85UHB100D.html\)](http://www.asahi.com/articles/ASH852WFJH85UHB100D.html)
23. <sup>^</sup> [コロッセオの床再建へ　ローマ、23年完成予定『読売新聞』2020年（令和2年）12月29日朝刊、13版、8面](#)
24. <sup>^</sup> <https://www.afpbb.com/articles/-/3272474> 「イタリア、封鎖を全土に拡大　新型コロナ」AFPBB　2020年3月10日　2021年3月4日閲覧
25. <sup>^</sup> <https://www.nikkei.com/article/DGXMZO59930830T00C20A6FF8000/> 「南欧、観光を再開、伊、欧州との入国制限解除」日本経済新聞　2020年6月3日　2021年3月4日閲覧
26. <sup>^</sup> [The Colosseum \(http://computerscience.johncabot.edu/kduong/s2014cs130-2/ppagani/Project/Information/Colosseum.html\)](http://computerscience.johncabot.edu/kduong/s2014cs130-2/ppagani/Project/Information/Colosseum.html)
27. <sup>^</sup> [THE ROMAN COLOSSEUM BENCHMARK \(http://web.njit.edu/~delano/colosseum.htm\)](http://web.njit.edu/~delano/colosseum.htm)
28. <sup>^</sup> [Roman Colosseum \(http://www.unrv.com/culture/colosseum.php\)](http://www.unrv.com/culture/colosseum.php) 収容人員 50,000 - 87,000人
29. <sup>^</sup> [The Roman Colosseum \(http://web.ics.purdue.edu/~rauhn/roman\\_colosseum.htm\)](http://web.ics.purdue.edu/~rauhn/roman_colosseum.htm) 収容人員 50,000人
30. <sup>^</sup> [ARENA: GLADIATORIAL GAMES \(http://vroma.rhodes.edu/~bmcm Manus/arena.html\)](http://vroma.rhodes.edu/~bmcm Manus/arena.html) 収容人員 40,000 - 60,000人でおおよそ50,000人
31. <sup>^</sup> [新建築社『NHK 夢の美術館 世界の名建築100選』新建築社、2008年、44頁。ISBN 978-4-7869-0219-2。](#)
32. <sup>^</sup> 「スポーツの文化史　古代オリンピックから21世紀まで」p82　ヴォルフガング・ベーリ  
ンガー　高木葉子訳　法政大学出版局　2019年3月25日初版第1刷
33. <sup>^</sup> [Colosseum killing machine reconstructed after more than 1,500 years \(https://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/europe/italy/11655510/Colosseum-killing-machine-reconstructed-after-more-than-1500-years.html\)](https://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/europe/italy/11655510/Colosseum-killing-machine-reconstructed-after-more-than-1500-years.html) - デイリー・テレグラフ

## 関連項目

---

- [ローマ歴史地区、教皇領とサン・パオロ・フオーリ・レ・ムーラ大聖堂](#)
- [剣闘士](#)

## 外部リンク

---

- 『コロセウム (<https://kotobank.jp/word/%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%82%BB%E3%82%A6%E3%83%A0>)』 - [コトバンク](#)
- 

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=コロッセオ&oldid=89467702>」から取得

---

**最終更新 2022年5月11日 (水) 09:02**（日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。